



2011年10月期決算及び  
「2012 中期経営計画」  
説明会資料

2012年1月11日  
株式会社 ミロク  
(証券コード 7983)



目次

I. 会社概要	・・・ p.2
II. 連結業績の実績と予想	・・・ p.9
III. 「2012 中期経営計画」	・・・ p.17



## 会社概要



## 会社情報

- 社 名 株式会社ミロク(大証2部上場)
- 本社所在地 高知県南国市篠原537-1
- 代表者 代表取締役社長 弥勒 美彦
- 創業/設立 1893年2月/1946年7月 (2003年5月 持株会社体制移行)
- 資本金 863百万円(発行済株式総数 15,027千株 2011年10月31日現在)
- 事業内容及びグループ企業

セグメント名称	主な事業内容	グループ企業	
猟 銃 事 業	猟銃の製造及び販売	◎ミロク製作所 ※ミロク工芸	◎南国ミロク
工 作 機 械 事 業	深孔加工機・工具の製造及び販売	◎ミロク機械	◎MIROKU MACHINE TOOL INC.
自 動 車 関 連 事 業	自動車用ハンドルの製造及び販売	◎ミロク製作所	※ミロクテクノウッド MTW USA
そ の 他 の 事 業	木工製品の加工及び販売	◎ミロク製作所	

◎:連結子会社 ※:持分法適用の関連会社

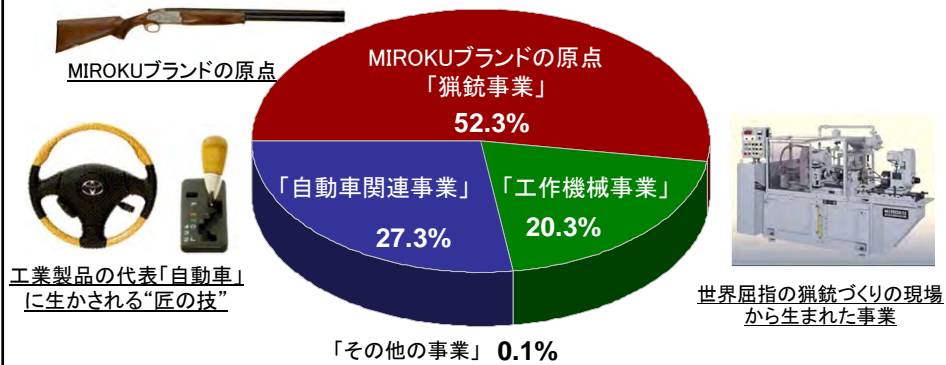
**MIROKU**

3

## MIROKUグループの特色：事業構成

1. 「猟銃の製造」が中核事業。わが国では珍しい事業構造。
2. 「猟銃づくり」の技術をベースに中核3事業へと多角化に成功。
3. 中核3事業の“強み”を活用した事業展開を推進中。

連結売上構成：9,016百万円(11/10期)



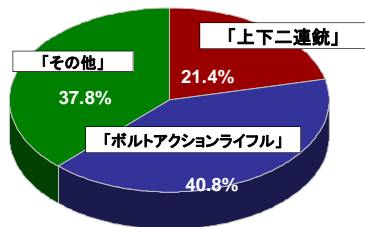
MIROKU

4

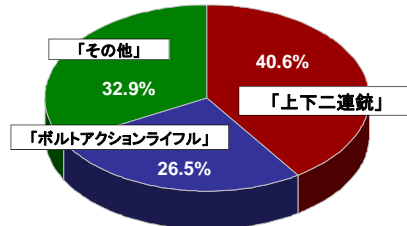
## 猟銃事業の特色と商品ラインナップ

1. ブローニング社がビジネスパートナー。海外売上比率99%。
2. 機能性・堅牢性・芸術性が求められる「上下二連銃」に強い。

販売数構成：約10万丁(11/10期)



売上構成：4,720百万円(11/10期)

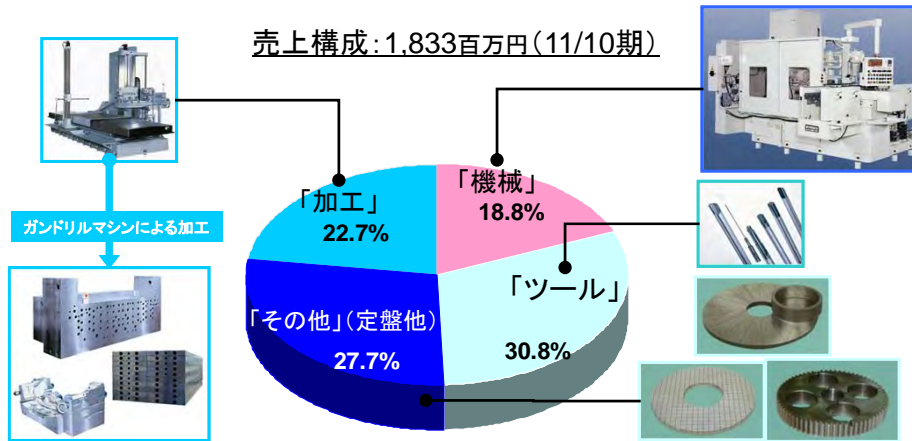


MIROKU

5

## 工作機械事業の事業内容

- 事業の支柱は特殊な深孔加工機「ガンドリルマシン」の製造販売。
- 主要販売先は「自動車関連業界」、取引先の6割以上を占める。
- 今後「機械部門」の廉価版及び「ツール・加工部門」に注力していく。



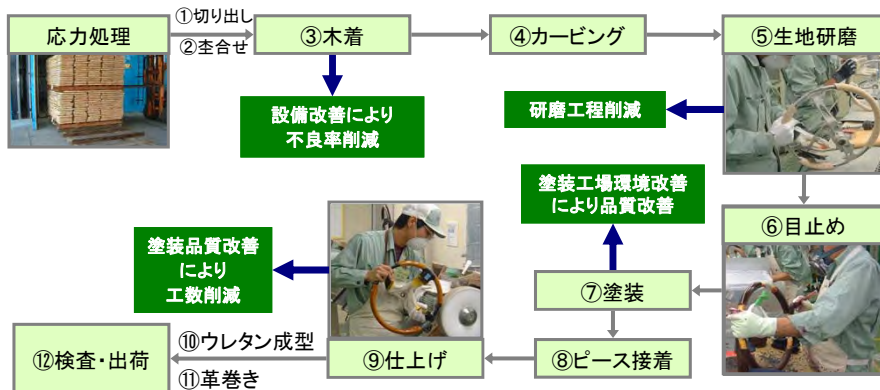
MIROKU

6

## 自動車関連事業の事業内容

1. 「純木製ハンドル」が主力。美観、強度、触感に優れた逸品。
2. 工業“技術”と匠の“技”が融合。
3. 東海理化Gとの合併会社MTWが製造。トヨタ生産方式を実践。

### 主力製品「純木製ハンドル」の製造工程



MIROKU

7

## ミロクグループの“モノづくり”と“モノづくりの基本理念”

### — MIROKUグループの“モノづくり” —

最新の工業“技術”と  
匠の“技”の融合

高い精度と堅牢さ

自然素材へのこだわり  
(地球環境に配慮)、  
“五感”に訴求

### “モノづくりの基本理念”

# HONESTY

- モノづくりに正直であること。 …モノづくりに込める匠の技と心
- 技術に正直であること。 …常に最良をめざす一途な探究心
- お客様に正直であること。 …お客様の声に真摯に耳を傾けること

MIROKU

8



## 連結業績の実績と予想



## 連結決算概要①

(百万円、%)

	10/10期	11/10期予想		11/10期		12/10期	
	(実績)	期初予想(*)	修正予想(*)	(実績)	前年同期比	(予想)	前年同期比
売上高	10,544	9,650	9,000	9,016	85.5	11,000	122.0
営業損益	▲179	▲280	▲170	▲53	—	150	—
経常損益	307	0	70	198	64.7	240	120.8
持分法投資利益	145	—	—	60	41.6	60	99.1
当期純損益	233	20	30	81	34.9	120	147.7

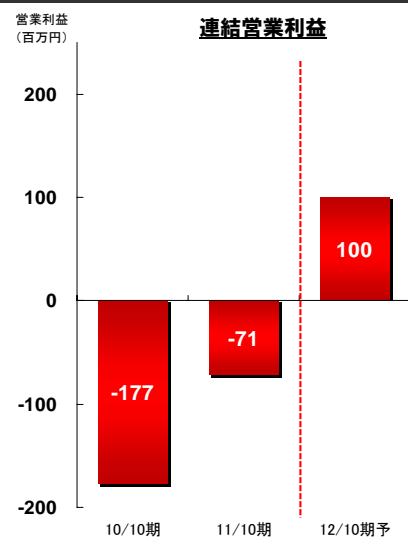
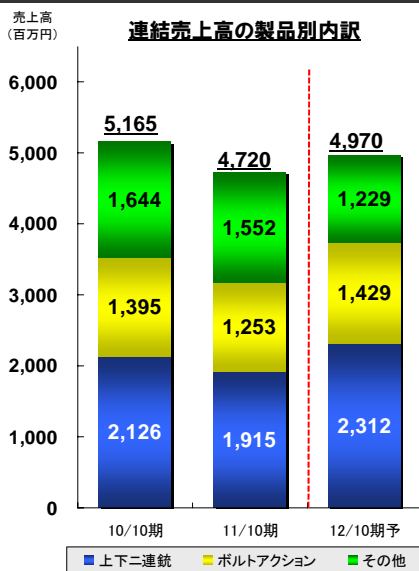
(\*) 期初予想: 2010.12.15発表の11/10期予想、修正予想: 2011.9.9発表の11/10期予想。このほか、2011.12.9に業績予想の修正を行っている。

- 売上高
 11/10期 : 震災の影響から自動車関連の落ち込みが拡大、前期比14.5%減。  
 12/10期予: 自動車・工作機械の上期増加寄与大、前期比20億円増加、100億円台回復。
- 営業損益
 11/10期 : 通期赤字が残るものの、猟銃事業の下期黒字化等から、大幅に改善。  
 12/10期予: 猟銃事業の安定化により、通期黒字回復。
- 経常損益
 11/10期 : 前年比減益ながらも、計画比128百万円改善。  
 12/10期予: 営業外収益の減少はあるものの、営業利益の大幅増により増益確保。

**MIROKU**

10

## 猟銃事業①

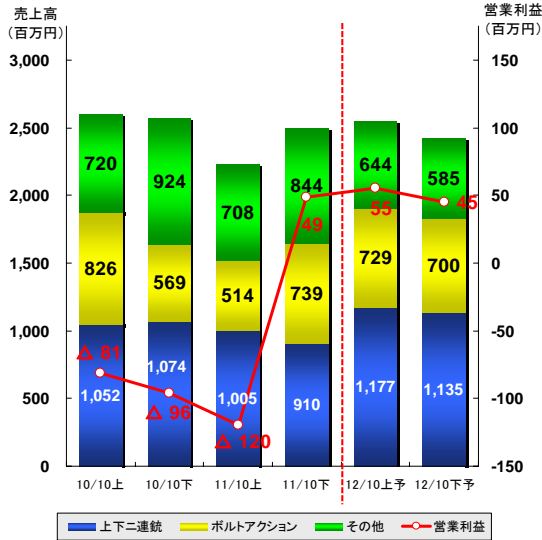


**MIROKU**

11

## 猟銃事業②

売上高・営業利益の推移(半期)



### 11/10期実績

**売上高:**  
 上期まで売上減少が続いたが、下期はボルトアクションライフルの追加受注等により回復基調。

**営業利益:**  
 上期は売上減少等から営業赤字が拡大したが、下期は、原価低減、合併等による体質改善が進む中、売上高が回復基調となり、黒字化。

### 12/10期予想

**売上高:**  
 11/10下期の回復基調に、新製品効果が加わる。上下二連続が伸長。

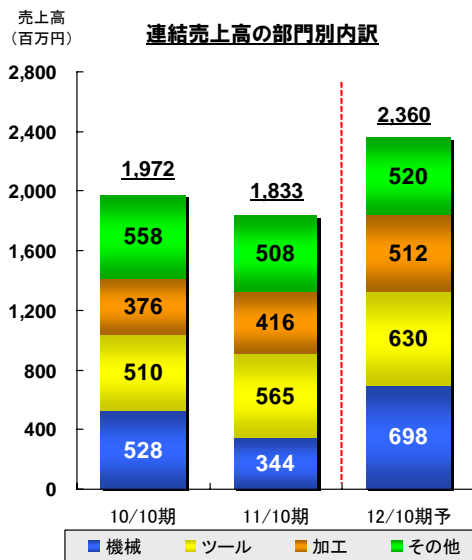
**営業利益:**  
 販売競争は激しいものの、原価低減の推進、数量増による売上確保から、営業黒字が定着。

MIROKU

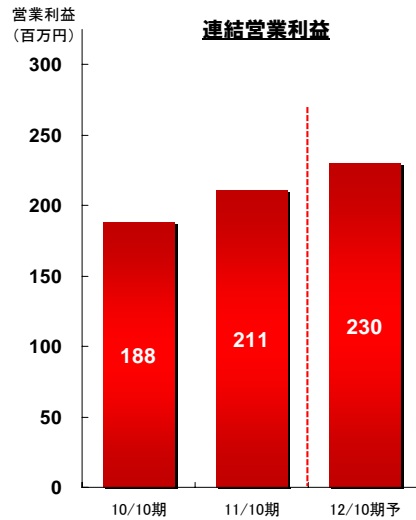
12

## 工作機械事業①

連結売上高の部門別内訳



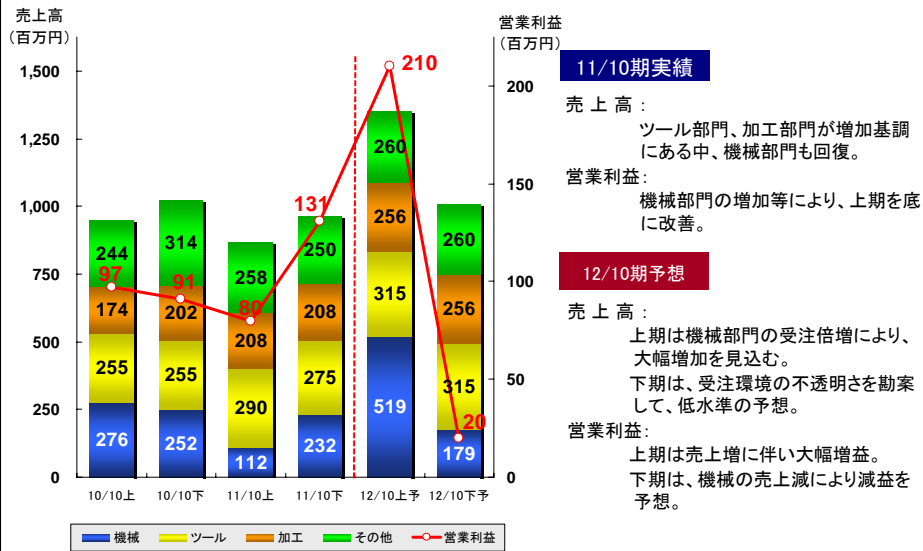
連結営業利益



MIROKU

13

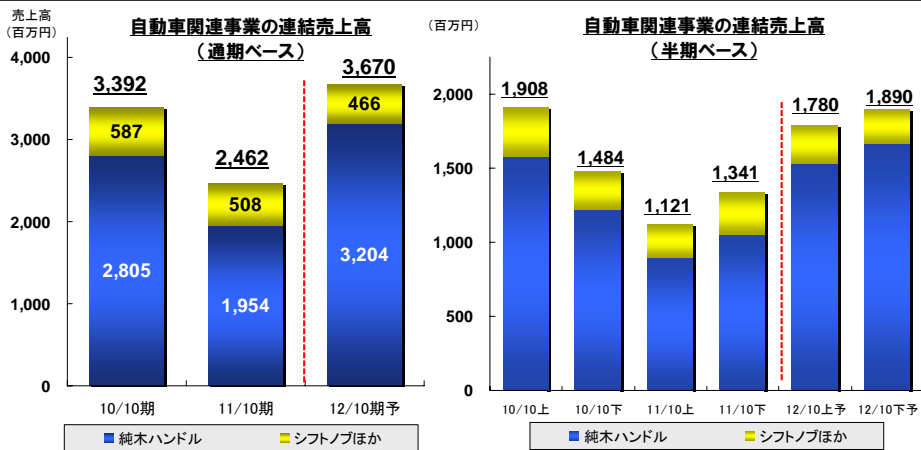
## 工作機械事業②



MIROKU

14

## 自動車関連事業: 売上高 通期・半期ベース



11/10期実績

上期は震災の影響等により減収になるも、下期から回復基調。ただ、上期の落ち込み大きく、前年比27%減

12/10期予想

純木製ハンドルが上期、下期を通じて堅調に増加し、前年比49%増加の見込み。

MIROKU

15

## (ご参考) 連結決算概要

(百万円、%)

	10/10期 (実績)	11/10期 (実績)	前年同期比	12/10期	
				(予想)	前年同期比
<b>売上高</b>	10,544	9,016	85.5	11,000	122.0
猟銃事業	5,165	4,720	91.4	4,970	105.3
工作機械事業	1,972	1,833	92.9	2,360	128.7
自動車関連事業	3,392	2,462	72.6	3,670	149.0
<b>営業利益</b>	▲179	▲53	—	150	—
猟銃事業	▲177	▲71	—	100	—
工作機械事業	188	211	112.0	230	108.8
自動車関連事業	36	21	57.4	20	95.2
<b>経常利益</b>	307	198	64.7	240	120.8
持分法投資利益	145	60	41.6	60	99.1
<b>当期純利益</b>	233	81	34.9	120	147.7

**MIROKU**

16



## 2012 中期経営計画



## 事業別想定環境の変化

### 円高の進行、欧州金融不安の影響で予断許さない環境

- 猟銃事業**
- 円高の進行による価格競争力の低下**  
**消費者の低価格指向の継続**
- ✓ 顧客の低価格指向は継続するも、ブローニングの販促により流通在庫は改善
  - ✓ 価格戦略及び新製品投入によるブローニング・ミロク製品のシェアアップが必要
- 工作機械事業**
- 自動車関連産業における新興国市場の拡大**
- ✓ コスト削減または設備投資額を圧縮するための廉価版の工作機械のニーズ増
  - ✓ 中国等新興国での加工部門や機械メンテナンス、ツールのニーズ有
- 自動車関連事業**
- 高級車市場の需要構造が変化してくる**
- ✓ 純木製ステアリングハンドルの初搭載から10年以上経過
  - ✓ 顧客を引き寄せる次世代のハンドル等新製品の開発が必要



3年後の目標数値(2014/10期)  
 売上高 11,200百万円 経常利益330百万円

## 猟銃事業の戦略

### 収益を確保するため損益分岐点の引き下げと売上の増加

(百万円)

	11/10期	12/10期	13/10期	2014/10期	
	実績	予想	予想	目標	11/10期比
売上高	4,720	4,970	5,270	5,310	+590
営業利益	▲71	100	120	120	+191

**施策1** •超円高、値下げ要請に対応する価格競争力の強化  
 ⇒品質を維持しつつ、抜本的な原価低減活動を推進

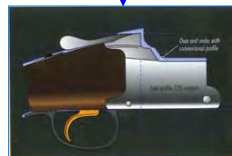
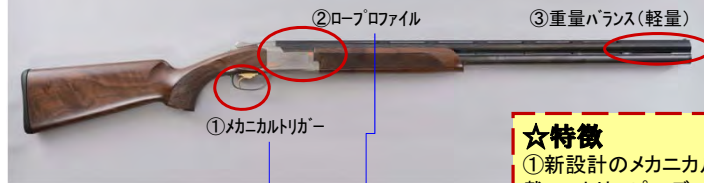
**施策2** •売上の増加による利益の積み上げ  
 ⇒新製品・新技術等による購入マインドの喚起

## 猟銃事業: 新製品Citori725

超ロングセラーモデルのフルモデルチェンジ⇒固定顧客の販売意欲喚起と新規顧客の取込み

Citoriシリーズ・・・1973年に初代モデルが誕生、累計で100万丁を世に送り出した超ロングセラーモデル。  
2012年 Citori 725(モデルチェンジ)がデビュー

### 新製品 Citori 725



#### ☆特徴

- ①新設計のメカニカルトリガー(引き金)搭載で、よりスピーディーな連射が可能
- ②ロープロファイル
  - ・スリムボディのスマートな形状
- ③バランスの改良
  - ・バランスが良く、取り回し性能が大きく向上(一体感)

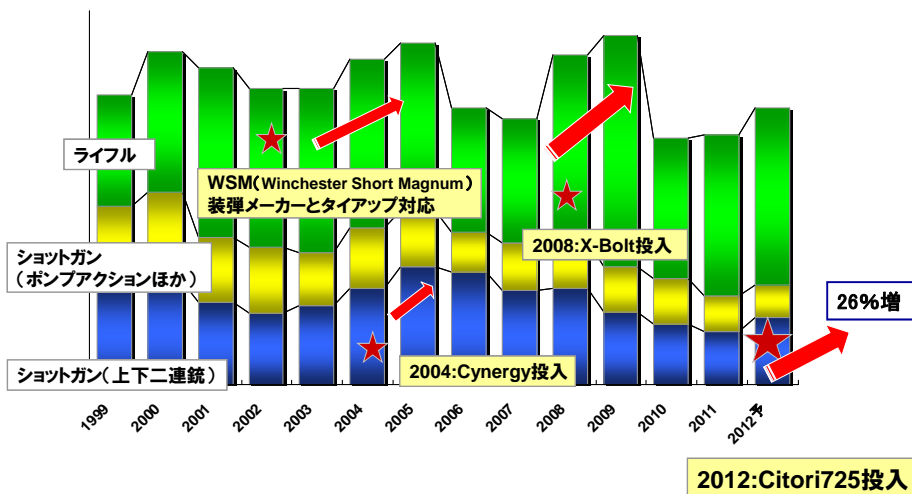
MIROKU

20

## 猟銃事業: 新製品投入の効果

2012年度の上下二連続の販売予定数は前年比+26%の増加

猟銃販売数量の推移



MIROKU

21

## 工作機械事業の戦略

### ツール・加工部門の強化と新興国への本格進出

(百万円)

	11/10期	12/10期	13/10期	2014/10期	11/10期比
	実績	予想	予想	目標	
売上高	1,833	2,360	2,200	2,390	+557
営業利益	211	230	270	320	+109

機械  
部門

・廉価な汎用機・専用機や新製品の開発  
⇒新興国市場の需要の獲得

ツール  
部門

・需要獲得に向けた営業戦略(新興国含む)

加工  
部門

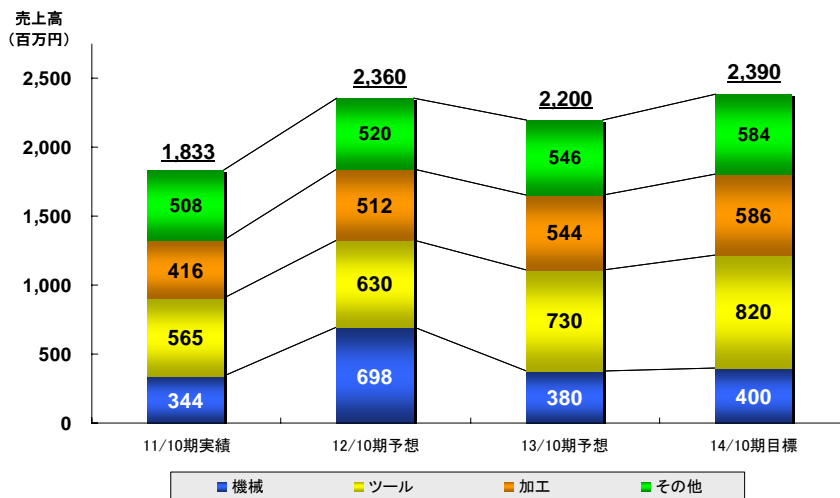
・営業体制の強化  
⇒新興国市場の需要の獲得

MIROKU

22

## 工作機械事業：売上増加のシナリオ

「売れるところで売る」⇒中国等新興国への販売(ツール・加工部門)と国内営業の強化

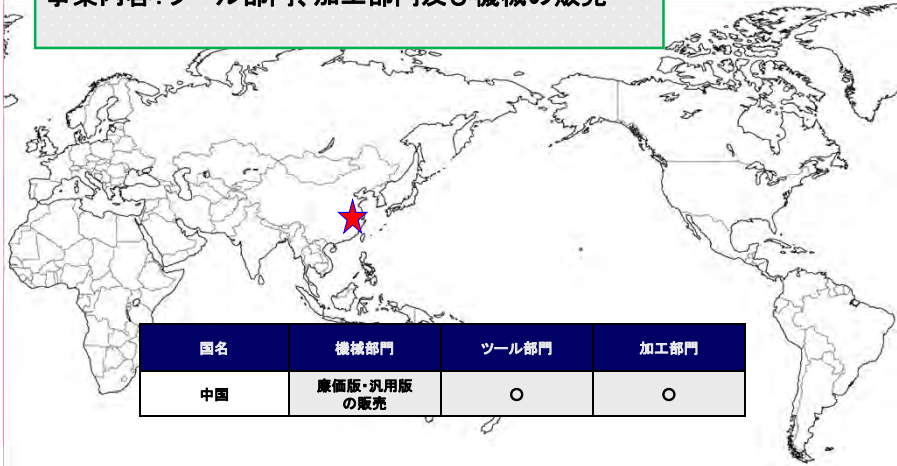


MIROKU

23

## 工作機械事業：中国等新興国への展開

中国にミロク機械㈱の子会社設立  
 社名：弥勒深孔机械(太倉)有限公司  
 操業予定：2012年4月  
 事業内容：ツール部門、加工部門及び機械の販売



MIROKU

24

## 自動車関連事業の戦略

需要構造が変化するなかで、常に勝ち抜く企業体質の構築

(百万円)

	11/10期	12/10期	13/10期	2014/10期	
	実績	予想	予想	目標	11/10期比
売上高	2,462	3,670	3,330	3,500	+1,038

(注) 持分法適用会社であるMTW(ミロクテクノウッド)が中核会社であり、持分法による投資利益の増減を通じて、連結業績に反映されます。

施策1

•魅力ある新製品(新規格・新素材)の開発・提案  
 ⇒純木製ハンドルに続く、次世代の収益基盤を狙う

施策2

•生産効率の継続的な改善  
 ⇒自工程完結、トヨタ生産方式等の推進

MIROKU

25

## 自動車関連事業トピックス:新素材(竹)の新製品

第42回東京モーターショー2011の株式会社東海理化殿の展示場において、「レクサスGS」の新モデルの一部グレードに搭載予定の「竹ステアリングホイール」が展示された

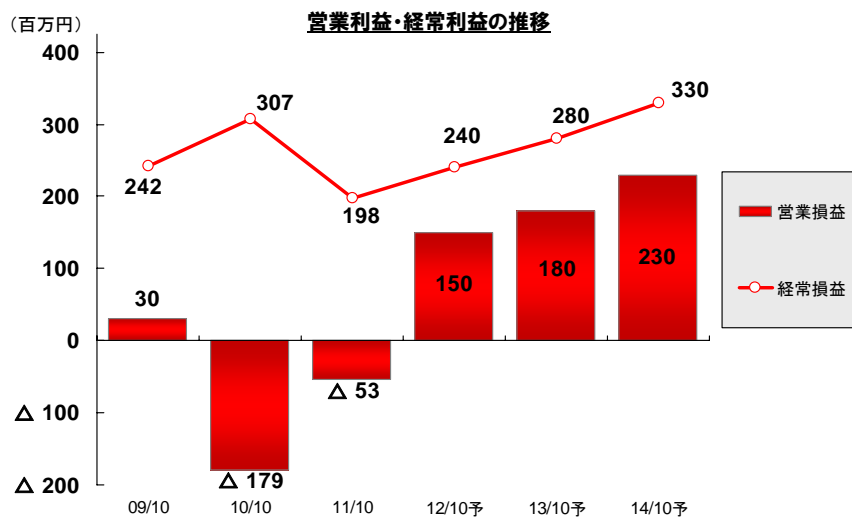


竹ステアリングホイールの完成品

(注)このステアリングホイールは、豊田合成株式会社殿と株式会社東海理化殿との協業によるものです。

## 「2012 中期経営計画」

めまぐるしく変化する外部環境に対応し、収益の回復、安定化を目指す



## (補足)連結収益の目標と予想

(百万円)

	11/10期 実績	12/10期 予想	13/10期 予想	14/10期 目標	11/10期比 (百万円)
売上高	9,016	11,000	10,800	11,200	<b>+2,184</b>
猟銃事業	4,720	4,970	5,270	5,310	<b>+590</b>
工作機械事業	1,833	2,360	2,200	2,390	<b>+557</b>
自動車関連事業	2,462	3,670	3,330	3,500	<b>+1,038</b>
営業利益	▲53	150	180	230	<b>+283</b>
猟銃事業	▲71	100	120	120	<b>+191</b>
工作機械事業	211	230	270	320	<b>+109</b>
自動車関連事業	21	20	20	20	<b>▲1</b>
共通	▲214	▲200	▲230	▲230	<b>▲16</b>
経常利益	198	240	280	330	<b>+132</b>
持分法投資利益	60	60	70	80	<b>+20</b>
当期純利益	81	120	140	160	<b>+79</b>

**MIROKU**

28



### (ご注意)

本資料の業績予想は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

